要求レベルに応じたソフトウェアをコンポーネント化。
利用する環境に合わせて自在なOE選択が可能です。

HP-UXは、多様なサービスの実装に向けて、用途ごとのプラットフォーム構築に最適なソフトウェアコンポーネントを組み合わせたオペレーティング環境（OE）として提供しています。OEは、ソフトウェアコンポーネント間の密接な統合、容易なライセンス管理、分かりやすいサポート契約、多数のコンポーネントの簡単なインストールなど、オペレーティングシステム（OS）では実現できない価値を提供します。HP-UX 11i v3では、標準的なソフトウェアコンポーネントを提供する「Foundation OE」、エンタープライズサーバ構築に適した「Enterprise OE」、クラスタ環境構築に適した「Mission-Critical OE」の3種類を提供します。

HP-UXをより深く知り、活用し尽くすために広範な情報を提供。

HP-UX DEVELOPER EDGE

HP-UXを中心に技術情報をWeb経由で提供する会員制（登録無料）の情報提供プログラム。HP-UX 11iに関する設定ガイドやコマンド・リファレンス、検証レポート、技術動向コラムなど、導入前の情報収集に有効。

http://www.hp.com/jp/developer

HP-UXの製品情報

http://www.hp.com/jp/hpux

⚠ 安全に関するご注意　ご使用の際は、商品に添付の取扱説明書をよくお読みの上、正しくお使いください。水、湿気、油煙等の多い場所に設置しないでください。火災、故障、感電などの原因となることがあります。

お問い合わせはカスタマー・インフォメーションセンターへ
03-6416-6660 月～金 9:00～19:00　土 10:00～18:00（日、祝祭日、年末年始および5/1を除く）
HP-UXに関する情報は http://www.hp.com/jp/hpux

Microsoft、Windowsは、米国におけるMicrosoft Corporationの登録商標です。
インテル、Intel、Intel Inside、Itanium、Itanium Inside、Intel ロゴ、Intel Inside ロゴはアメリカ合衆国および他の国における
インテル コーポレーションまたはその子会社の商標または登録商標です。
Javaは、米国におけるSun Microsystems, Incの商標です。
UNIXは、The Open Groupの商標です。
記載されている会社名および商品名は、各社の商標または登録商標です。
記載事項は2007年4月現在のものです。
本カタログに記載された内容は、予告なく変更されることがあります。
© Copyright 2006, 2007 Hewlett-Packard Development Company,L.P.

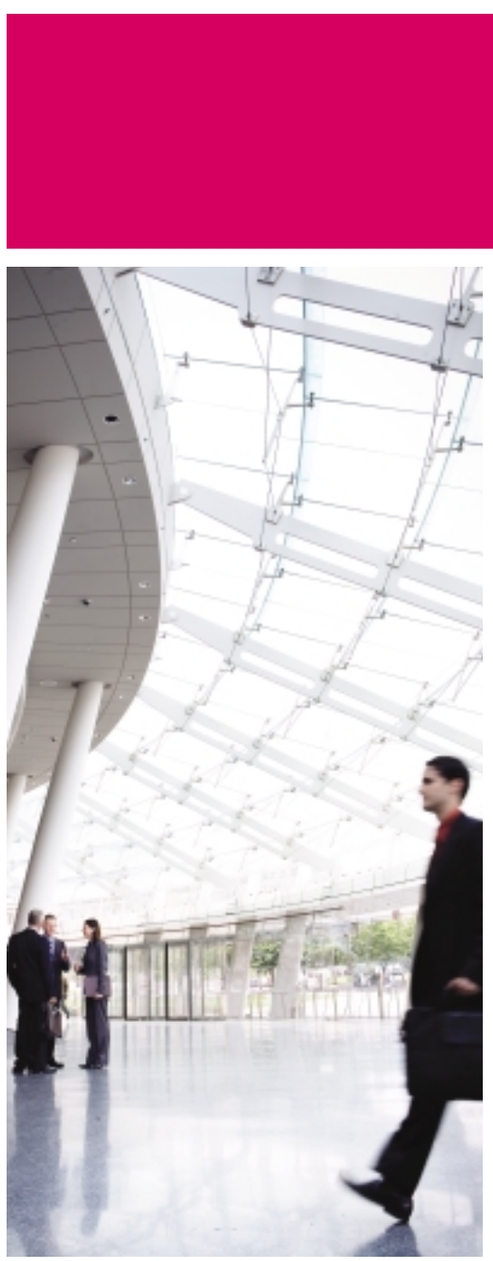
本カタログは環境保護のため100%再生紙および大豆インキを使用しています。

日本ヒューレット・パッカード株式会社
〒102-0076 東京都千代田区五番町7番地

JHS05575-02

HP-UX 11i v3

ミッションクリティカルだからこそ選ばれる
信頼のオペレーティング環境



これまでも、そしてこれからも。
ミッションクリティカルなシステムは
HP-UXとHP Integrityサーバが支えます。

今や企業のあらゆる活動がITという基盤の上で動いています。
このため、ITサービスの停止は、即ビジネスの停止を意味します。
いかなるITシステムでも、ミッションクリティカル性が求められているのです。
どのような状況でもビジネスを止めない堅牢性を備え、
その能力を長期間にわたって維持できなくてはならないミッションクリティカル・システム。
その実現のベースとなるオペレーティング環境とプラットフォームには
実績に裏付けられた絶対の信頼性と可用性、そして今後の成長に応えられる将来性が不可欠です。
HP-UX & HP Integrityサーバ。密接に連携し合いながら進化を続けてきたこの両者は、
ミッションクリティカル・システムの基盤に求められる数々の条件を満たす最良の組み合わせです。
そして、両者を支える優れた管理性や万全のサポートは、運用コストの削減という価値も提供。
HPの提唱する、自律的で効率的なITインフラの理想型「アダプティブ・インフラストラクチャ」を目指し、
HP-UX & HP Integrityサーバは、これからも進化のスピードを緩めません。

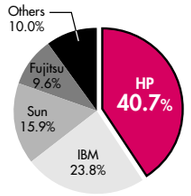
「安心感」と「将来性」
そして「コスト削減」を求めるなら
ベストの選択肢は
HP-UX & HP Integrityサーバです。

HP-UXとHP Integrityサーバは、ミッションクリティカルなITシステム分野で、長年にわたり数多くの実績を世界中で積み上げてきました。そしてHP-UX 11iはv3の登場により、さらなる進化を遂げています。長期間にわたり企業の歩みとともに成長を続けていかなくてはならないITシステム。HP-UXとHP Integrityサーバはそれがいかに重要なことかを明確に理解しています。

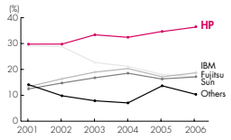
HP-UXの進化

2007	HP-UX 11i v3発表
2003	HP-UX 11i v2 Itanium/PA-RISC統合版
2002	HP-UX 11i v1.6 Itanium版 ミッションクリティカル用途に対応
2001	HP-UX 11i v1.5 Itanium版 開発環境
1997	HP-UX 11.0 64bit化
1995	HP-UX 10.x
1989	HP-UX SystemV R4 (SVR4)
1986	HP-UX 1.0 PA-RISC対応
1983	HP-UXが開発される
1983	UNIX SystemV
1979	UNIX/32V 32bit CPU版
1973	UNIX 4th Edition C言語で書き直される
1975	UNIX V6
1971	UNIX 1st Edition
1968	UNIXの原形になるシステムが作られる

40%を超える圧倒的な市場シェア

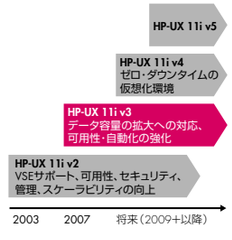


6年連続でシェアNo.1を継続中



出典：Unix OS/RISC & EPIC (IA-64) Server, Revenue Share IDC Worldwide Quarterly Server Tracker, Q406

将来を見据えた明確なロードマップ



安心感

メインフレームクラスの抜群の「安心感」をオープンシステムで実現

20年以上の実績の証し、6年連続シェアNo.1

商用UNIXであるHP-UXの最初のバージョンがリリースされたのは1986年のこと。以来、HPの戦略的オペレーティング環境として進化を続け、企業の基幹業務システム、インターネットを介した金融機関のオンラインシステムなど、一定のサービスレベルで大量のトランザクションを高速に処理することが求められるミッションクリティカルなシステムで、多くの導入実績を誇っています。その結果、国内のUNIXサーバ市場でも連続6年にわたりNo.1シェアを維持。最新の2006年第4四半期のデータでは40%を超える圧倒的な支持を獲得しています。

ハイエンドサーバの業界標準をいち早く確立

HPが業界に先駆けてインテル® Itanium® 2 プロセッサに対応したOSを市場に投入したのは、2001年のHP-UX 11i v1.5からです。すでに完全な64ビット対応を済ませていたこともあって、インテル® Itanium® 2 プロセッサはHP-UX上でそのポテンシャルを存分に発揮。HP-UXと、インテル® Itanium® 2 プロセッサ搭載のHP Integrityサーバは、エンタープライズ用途に最適なハイエンドサーバの標準プラットフォームとして、常に業界をリードしています。

強力なサポート体制も長期安定稼動を支援

企業活動の基盤となるエンタープライズシステムは、ビジネスの成長や経営環境の変化に対応し、長期間の安定稼動が求められます。このため、システムを支えるオペレーティング環境やハードウェアにも長期安定稼動の能力が必須です。商用UNIXの代表であるHP-UXとHP Integrityサーバの組み合わせは、この点でベストの選択肢といえます。
WindowsやLinuxといったオペレーティングシステム（OS）と比較した場合、HP-UXの優位性は、プロセッサやチップセット、ネットワーク、ストレージなどのハードウェアを、OSと一体のものとして開発していることにあります。OSとハードウェアの親和性が極めて高いのです。こうした特長は長期安定稼動に大きな安心感をもたらします。
またHPの場合、サポートも長期安定稼動に不可欠な要素であることを認識。HP-UXの10年間サポート、ミッションクリティカルを知り尽くしたエンジニアを地球規模で配備したサポート体制、緊急事態にも対応できる充実したサービスメニューなど、HPはハードからOSに至る一貫した安心のサポート提供に努めています。

HP-UX 11i

24時間×365日、完全自動化コンピューティングを可能にするアダプティブ・インフラストラクチャの実現を目指す

将来性

先進テクノロジを追求し、10年先をも見とおした「将来性」

ミッションクリティカル用途で高い評価と数多くの実績を積み重ねているHP-UXとHP Integrityサーバ。その理由の1つは、信頼性、柔軟性、管理性というミッションクリティカルシステムに不可欠な要素を継続的に進化させるべく、HPが数々の先進テクノロジの開発や適用に積極的に取り組んできたことにあります。その一環として、長期間にわたって利用されるオペレーティング環境HP-UXでは、将来に向けた明確なロードマップを策定。新しくリリースしたHP-UX 11i v3では、信頼性、柔軟性、管理性を一層強化しています。そして、次世代のv4やv5への取り組みも順次スタート。HPはHP-UXをはじめとするテクノロジへの投資にこれからも力を注いでいきます。

コスト削減

変化に即応するITの全体最適を実現しトータルな「ITコスト」削減にも貢献

ビジネスの変化に即応できるITインフラの理想形として、HPが提唱する「アダプティブ・インフラストラクチャ（AI）」。その実現はサーバ統合や仮想化、ツールによる自動運用や統合的な管理といったテクノロジを結集させることで可能になりますが、こうしたAIを指向するすべてのテクノロジに対応できるオペレーティング環境がHP-UXです。ITコストの中で、導入後、継続的にかかってくる運用コストは全体の7割以上を占めるといわれています。HP-UXをベースにAIへの歩みを進めていけば、ITの全体最適化によるリソース利用率の向上、運用業務の効率化、メンテナンスコストの削減などが可能になります。増え続けるトータルなITコストを大幅に削減することができるのです。

HP-UXが提供する「信頼性」、「柔軟性」そして「管理性」という3つの価値がビジネスに成功と競争優位性をもたらします。

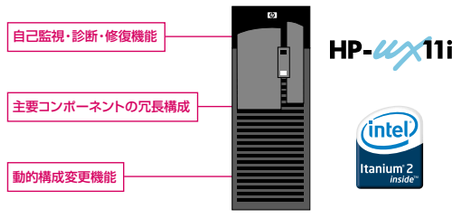
ITシステムは、経営の究極の目標であるビジネスの成功にダイレクトに貢献できなくてはなりません。そのためにHP-UXでは、何重にもわたるハイアベイラビリティ（HA）のための仕組みで高信頼性を確保し、仮想化などによる先進の柔軟性でビジネス要求に即応、さらにトータルな管理性が運用コスト削減を実現します。

いかなる事態にもビジネスを絶対に止めない確固たる 信頼性

オンライントランザクション処理に最適なHPの「シングルシステムHA」

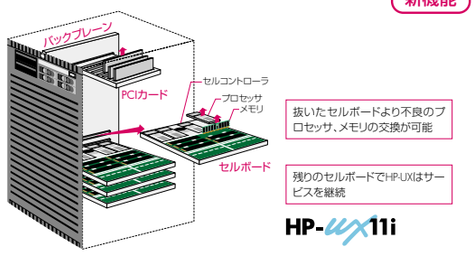
HPでは、「自己修復機能」「動的構成変更機能」、「主要コンポーネントの冗長化」という3つの角度から信頼性強化を実施しています。サーバ単体の処理能力が上がるにつれて、サービスの継続稼動において重要となるのが、システムを構成する主要コンポーネントの「自己修復機能」です。特に一定のサービスレベルで大量のトランザクションを高速処理するOLTP（オンライントランザクション処理）用途では、サーバのメモリアクセスが多発するため、エラーに対する保護機能をシステムが備えていないと、予想外のダウンタイムに繋がる可能性が高まります。HP Integrityサーバは、完全な64bitに対応した業界標準のインテル® Itanium® 2プロセッサを搭載し、HP自社開発のチップセット技術によりプロセッサ、メモリ、I/Oと連携したエラープロテクション機能を実現。メモリにはダブルチップスペアリング、メモリスクラビング機能を付加しました。HP-UXとハードウェア技術を連携させることで、障害のあるメモリやプロセッサを切り離すDMR（Dynamic Memory Resilience）、DPR（Dynamic Process Resilience）はHP-UX 11i v1より、HP-UX 11i v3ではセルボードの活線挿抜機能、PCI I/Oエラー自動回復機能を新たに実装。さらに、障害時の迅速な復旧への備えとしてOSのメモリのダンプ時間を短縮し、システム全体の信頼性を最高レベルに引き上げています。

あらゆる視点から信頼性強化を実現。HPの「シングルシステムHA」



HP-UXは起動したままにセルボード、PCIカードの挿抜が可能「動的構成変更機能」

新機能



rx8640の内部概略図

チェックポイント1
内部統制に向けたITセキュリティ対策を支援

ITシステムの運用段階では、不正侵入や、ウィルス対策、ユーザに対する権限やID管理などの考慮が必要です。HP-UXオペレーティング環境はインストール時に4段階の基本セキュリティ設定を実施するInstall Time Securityをはじめとし、運用段階で求められる主要機能を標準で提供しています。

HP-UXが提供する強固なセキュリティ環境

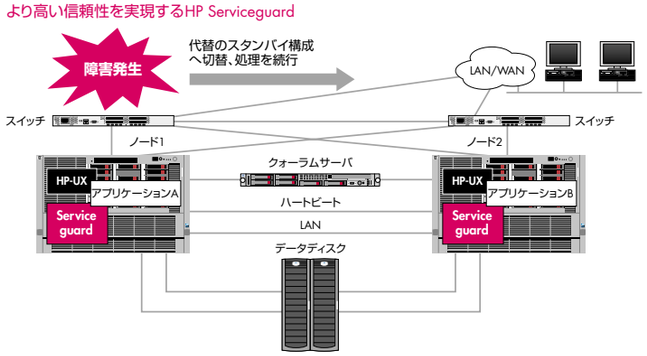
- アクセス権限を用途ごとに細分化する機能
- アイデンティティ管理に向けたディレクトリーサーバ
- ボリューム&ファイルシステム暗号化機能
- ホストベースの侵入検地、レポーティング
- セキュリティパッチの確認と適用支援

Oracleデータベース環境で実績あるクラスタ技術「HP Serviceguard」で、より高度なHAを

万が一、サーバ単体に障害が発生しても、システム全体は稼動し続け、ITサービスを止めない。信頼性向上のための第2の備えが「マルチシステムHA」です。HPでは、これを実現するクラスタ設計において、データの整合性を最も重要な要件として位置づけています。整合性の失われたテラバイト単位のデータ復元には大変な時間がかかり、システム復旧までに何日もかかってしまうからです。複数のノードのデータベースへの書き込みが競合し、致命的な問題となる「スプリット・ブレイン」の発生を許さない設計を取り入れたHP Servicegurdは、ミッションクリティカル分野で多くのお客様に採用されています。HP-UX版のHP Servicegurdでは「ゴーストI/O」と呼ばれる現象への対策として、障害時にディスクへの書き込み処理を直ちに停止する仕組みを実装。データの破損を防止します。こうしたメカニズムはソフトウェアとハードウェアが直接連携しているから実現できるのです。

さらにHPでは、HP Servicegurdをベースとしたディザスタリカバリ・ソリューションを提供。ローカル・クラスタでのフェイルオーバーの規模を拡大し、サイトからサイトへのフェイルオーバーを数分～数時間で実現するメカニズムを提供します。火災や停電などの大規模災害、地震や台風などの自然災害が発生したときでも、ITサービスの継続性を確保します。

より高い信頼性を実現するHP Serviceguard



チェックポイント2
運用段階のニーズを満たす最高のパフォーマンス

HP-UX 11i v3では、業務系のアプリケーション、データベース用途に向けた大幅なパフォーマンス強化が実施されました。HP Integrityサーバの能力を最大限に引き出すHP-UXは、SPECjAppServer 2004, Single-System TPC-H@10000GB,Two-tier SAP SD Standard Applicationといった、運用段階での指標となるベンチマーク※を公開し、トップクラスの性能を証明しました。パイパースレッディング・テクノロジに対応したデュアルコア インテル® Itanium® 2プロセッサはHP-UX 11i v3と最も親和性が高く、更なる性能向上に貢献します。

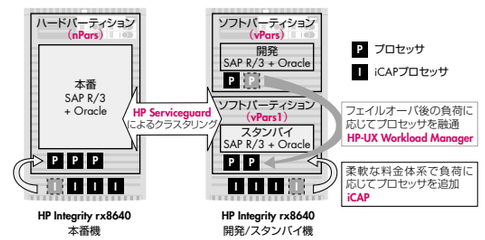
※HP-UXの最新ベンチマーク情報はwww.hp.com/jp/hpuxのWebサイトよりご参照いただけます。

企業とビジネスの成長や変化に即応できる 柔軟性

必要なときに必要なだけのキャパシティ増強をHP-UX環境で実現

HP-UXでは、基幹システムのさまざまなニーズに対して、パーティショニング技術から運用支援、環境の管理まで一連の仮想化ソリューションを「HP VSE（Virtual Server Environment）」として提供しています。たとえば、ERP（Enterprise Resource Planning）、SCM（Supply Chain Management）のような企業の基幹業務システム環境では、開発やテスト、本番用途の環境が個別に必要となります。HP-UXの幅広い仮想化ソリューションラインアップなら、複数台のサーバで構成される個別の環境をシンプルにコンソリデーションし、各環境のサービスレベルを維持しながら柔軟なキャパシティ増強が可能です。動的なプロセッサやメモリリソースの増減は、パーティショニング機能やインスタントキャパシティ機能と組み合わせ、自動的に調整。さらに、HP-UX Virtual Partitionsでは、新たにメモリの動的構成変更機能を付加し、HP-UX 11i v2, v3の混在も可能になりました。

柔軟性と冗長性を実現するHP VSEによるコンソリデーション例

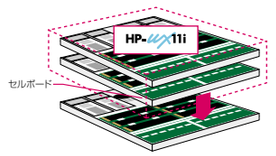


柔軟性とスケーラビリティを兼ね備えたシステムの重要性

新しくリリースされたHP-UX 11i v3では、ストレージ容量のスケーラビリティを最大1億ゼタバイト（ZB）以上まで対応する設計を実施しました。柔軟性とスケーラビリティを備えたHP-UXサーバは、業務系のアプリケーション、データベース用途において大きなメリットがあります。基幹システムでは日常的に更新処理やバッチ処理を実行するため、1台のサーバの果たす役割は非常に大きく、ダウンタイムによる業務への影響も甚大です。そのため、サーバ環境自体が高信頼であることはもちろん、急なリソース要求にも対応できる拡張性や柔軟性を提供する仮想化機能が統合されている必要があります。HP-UX 11i v3では、利用率の低いアプリケーションに割り振っていたプロセッサとメモリの一部を負荷の高まっているアプリケーション用に再配分するといった切り替えが強化され、より高度で柔軟な運用が可能になります。もちろん、運用性の向上、リソースの利用率向上によるIT予算の抑制といった面でもメリットがあることはいうまでもありません。

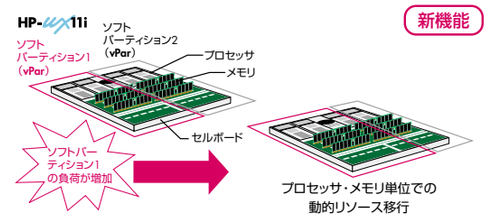
HP-UXを落とす事無くハードパーティションの構成を変更可能

新機能



プロセッサだけでなくメモリを含めた動的リソース移行を実現

新機能

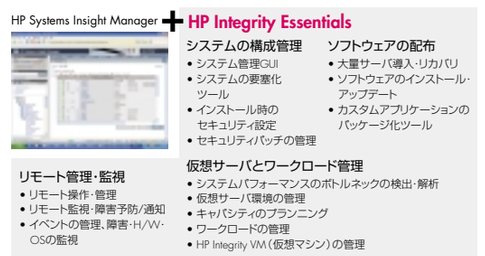


運用の手間とコストを減らす統合管理環境と管理ツールを提供 管理性

運用の手間とコストを減らす統合管理環境を提供

HP-UXとHP Integrityサーバの組み合わせが提供する管理性は、システムの導入から運用、設定や構成の変更、トラブル対応、拡張といった一連のライフサイクルをトータルにカバー。さらに高度な運用が不可欠になる仮想化環境の運用においても、シンプルな管理を実現します。この管理性の中核を担うのが、統合管理環境である「HP Systems Insight Manager（SIM）」と多様な管理ツールを体系的にそろえた「HP Integrity Essentials」。両者の有機的な連携により、視覚的な分かりやすさと容易な操作性、ハードからソフトに至る広範な管理性を実現します。

HP Systems Insight Managerを核とした統合管理環境

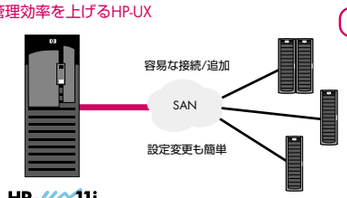


大規模SANの設定・管理が容易に

構築時はもちろん、設定や構成の変更、運用管理でも多くの手間が必要だった大規模SAN。HP-UX 11i v3では、大規模SANの抱えるこうした課題を解決できるように進化。SANデバイスを接続するだけで自動認識、設定要らずの再接続といった、手間のかからないSAN環境を構築できます。

SANの管理効率を上げるHP-UX

新機能



HP-UXに対するサポートの万全な体制と実績が、安定したシステム運用を強力に支えます。

ミッションクリティカルなシステムでは、導入後長きにわたって続く運用期間中こそ念には念を入れた対応が不可欠です。HPは、この運用期間中のサポートの重要性を深く認識。グローバルな体制、開発部隊とサポート部隊の密接な連携、サポートツールの提供、Webを使ったお客様への技術支援、リモートによる運用支援など、幾重にもわたる業界随一のサポート環境を構築しています。

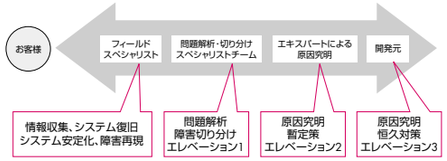
保守サポート

お客様から開発元まで一貫したサポートプロセスと安心のグローバル体制

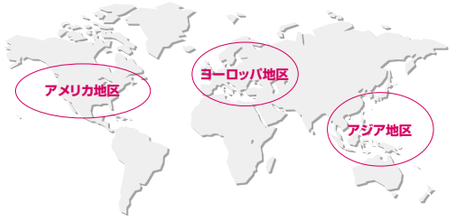
HPの提供する優れたサポートサービスの特長は、お客様の視点で対応することを重視し、システム復旧や安定稼動に向けたプロセスや体制をお客様から開発元まで一貫したグローバル組織として構築していることです。万一、トラブルが発生した場合には、世界規模で蓄積しているナレッジデータベースにアクセス。即座に適切な対処を行うほか、製品に特化したスペシャリストが豊富な知識、ソースコードなどから問題解決や障害の切り分けにあたり、迅速で確実な支援を提供します。

HP-UXならではの特長としては、製品開発を行う開発部隊と同等の高い技術スキルを持つエキスパートでサポートチームを組織していること、そして日本をはじめとする全世界の拠点に24時間、エンタープライズシステム環境に対応できる体制を整備していることです。HPのグローバルな組織で活動する日本のエキスパートチームの問題解決能力は、ミッションクリティカルなオープンシステムで重要な役割を担っています。

障害解決プロセス



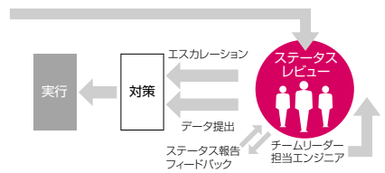
グローバルなエキスパート体制



開発部隊とのコミュニケーションでHP-UXのサービス品質向上を図る

HP-UXの20年以上の実績の中で、ミッションクリティカル・システムならではの課題に対応できるよう、サポートチームはサービス品質向上への取り組みを日々続けてきました。HP-UX開発部隊との定期的な検証は問題解決に要した時間、サービス品質、顧客満足度、生産性という観点で行われ、お客様に提供する具体的な対策へとフィードバックされます。

サポート品質管理プログラム



サポータビリティは信頼性の向上に必要不可欠なOS保守テクノロジ

サポータビリティとは、障害の未然回避や原因究明に必要なデータ収集・解析を迅速に行う機能など、継続運用・保守につながるシステム全体の信頼性向上、技術者の生産性向上による早期解決策の提供を目的とした仕組みです。お客様へのメリットには、障害復旧や原因究明の時間短縮、恒久対策による障害の再発防止などがあり、ミッションクリティカルなシステムには不可欠な要素です。HPでは、保守のエキスパートチームと保守性機能の開発チームが連携して、HP-UX環境向けのサポータビリティツールを開発。また、人材育成、技術情報の共有化も積極的に展開しています。

ITリソース・センタ(ITRC)がWebでシステム管理者を支援

ITRCは、HP-UX導入後の技術的なお問合せへの対応、サポート情報や技術情報の提供を行う登録制のWebサイトです（登録無料）。Webからレスポンスセンタに直接お問合せいただける「サポート ケース マネージャ」をはじめ、お客様ご自身で問題を解決できるよう、実用的なサポート機能やパッチデータベース、膨大な量の技術情報などを提供しています。

ITRCへのアクセス
http://www.hp.com/jp/itrc

サポートケースマネージャのご利用手順
http://www.hp.com/jp/scm_guide

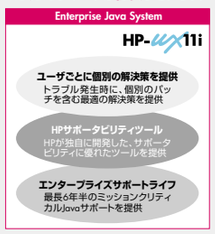
HP通報サービス(HP ISEE)により障害予兆をオンライン監視

24時間365日、お客様のハードウェアの障害予兆を自動で検知し、HPに自動通報するHP通報サービス(HP ISEE)。標準保証から無償でご利用いただけ、クリティカルな問題の未然防止、情報システムの信頼性・可用性向上に貢献します。

チェックポイント3
Java SE環境とサポートもHPにお任せください

HPはJava SE環境をHP-UX上に実装し、性能向上、品質向上に取り組んできました。エンタープライズのJavaベースアプリケーション環境には、安定したJVMが求められます。Java特有の頻繁なアップデートやサポートの懸念に対して、HPはミッションクリティカルJavaサポートソリューション（MC Java）として、HP-UX JVMに特化したグローバルな保守体制をもち、HP-UXのサポートメニューの一つとして提供をしています。

MC Javaサポートが提供するメリット

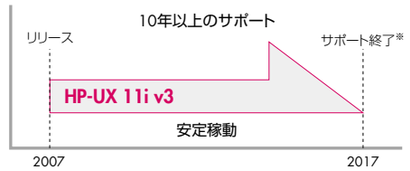


長期サポート

基幹系のシステムには10年の長期サポートが当然

長期間にわたって継続的に運用することが前提のミッションクリティカルな基幹系システムには、その間、安心して稼動を任せられるオペレーティング環境が不可欠です。こうしたニーズに応えるため、HP-UX 11iはv1を登場させたときから、リリース後最低でも10年間のサポートをお客様に約束し、実践してきました。もちろんこの10年サポートはHP-UX 11i v3でも維持。こうした安心感が、多くのミッションクリティカルシステムでHP-UXが採用されているという実績につながっているのです。

長期サポートが計画的運用と安定稼働を約束



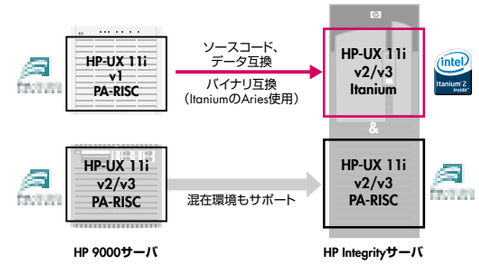
※ 市場などの状況により、期限を延長することがあります。

投資保護

PA-RISCからのスムーズな移行を支援し、これまでの投資を保護

既存のシステム資産に対し、今後のお客様の成長のためにスムーズに増強できる仕組みを用意しておくことは、ベンダに課された重要な使命の1つだとHPは考えます。そこでHPは、HP SuperdomeにおいてPA-RISCとインテル® Itanium® 2 プロセッサの混在をサポート。さらに、PA-RISC搭載HP 9000サーバからインテル® Itanium® 2 プロセッサ搭載のHP Integrityサーバへと HP-UXの環境を容易に移行できるよう、両サーバに共通のバージョンとシステム管理環境を提供（HP-UX 11i v2、v3）。併せて、ソースコードやデータ互換、Ariesによるバイナリ互換性の提供をしています。また、LinuxからHP-UX、SolarisからHP-UXといった移行ニーズにも対応できるよう、各種の移行支援ツールも提供しています。

多様な互換性を確保しスムーズな移行を実現

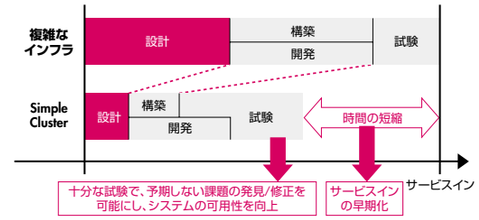


導入支援

実証ベースの短期間・低コスト・低リスクなソリューションを提供

HP-UXで利用が可能になるハイアベイラビリティ(HA)技術や仮想化、セキュリティといったテクノロジはすべて、HPが培ってきたノウハウと検証を行い、リファレンスアーキテクチャとして整理。これをベースにすることで短期間・低コスト・低リスクな導入を実現しています。たとえばHAソリューションの1つである「シンプルクラスタ」では、これまで煩雑な作業が必要だったクラスタシステムで、機能を絞り込み、利用するクラスタウェアなどを限定。クラスタ導入までの期間短縮と低コスト化を実現しています。このようなニーズにピンポイントで応える確実なソリューションを、HPは数多くそろえています。

クラスタ構築期間を大幅短縮するシンプルクラスタ



一体で進化してきたHP IntegrityとHP-UXの高い親和性

メインフレームと比べ、オープンなサーバのメリットは低価格なこと、標準技術をベースにしたハードウェアやソフトウェア等の選択肢が豊富で価格も安いこと、などが挙げられます。ミッションクリティカルシステムのように厳格な信頼性が求められる用途では、オープンなハード／OSの確実な動作、複数の機器等を組み合わせた際の相性、といった事が重要になります。ハードウェアと一体で開発され、動作検証や組み合わせ検証も実施済みのHP-UXなら、こうした心配は不要です。HP-UXとHP Integrityサーバの組み合わせは、極めて高い信頼性が求められる業務アプリケーション、データベースサーバ用途でも、安定稼動を実現します。

HP Integrityサーバ

ミッションクリティカル・システムに求められる
圧倒的なパフォーマンスと高信頼性、高可用性を備えた
先進のインテル® Itanium® 2 プロセッサ搭載サーバ

HP Integrityサーバについては
http://www.hp.com/jp/integrity